

特色ある学校

地域に根ざした教育活動

秋田県立小坂高等学校長 村上 清秀

1. 学校紹介

本校は、小坂町立小坂実科高等女学校として、大正5年に設立された。昭和23年に学制改革により県に移管され、秋田県立小坂高等学校となった。創立以来、戦前は女子教育を担い、戦後は普通科、家庭科、工業科からなる県下では希な総合制高校として、多くの有為な人材を輩出してきた。現在は普通科と環境技術科の2クラスである。校訓「和親」の精神のもと、特に地域社会と連携した教育活動に力を入れており、健全な心身と豊かな個性を育て、広く社会の発展に貢献できる人材の育成に努めている。



図1 校舎全景

2. 環境技術科の紹介

工業科である環境技術科は、2年次から電気系と機械系に分かれる。「環境に配慮したものづくりができる人材の育成」を目指し、各種資格・検定試験のチャレンジ、ものづくりコンテスト、リサイクル活動等の様々な活動を通して、

知識や技能レベルを向上させるとともに、実習や課題研究のアクティブラーニングにより、環境マインドを持った人材を育成している。

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年	基礎科目											
2年	環境技術科											
3年	環境技術科											

図2 環境技術科教育課程

《令和元年度 主な資格取得実績》

技能検定3級（機械保全）	4名	合格率 80%
機械検査3級	1名	100%
電気工事士 一種	4名	66%
二種	10名	53%
初級 CAD 検定	8名	57%
基礎製図検定	5名	39%
機械製図検定	1名	100%
溶接技能検定	3名	100%
計算技術検定2級	2名	29%
ジュニアマイスター顕彰（3年生在籍23名）		
ゴールド表彰	2名	
シルバー表彰	8名	

《令和元年度 高校生ものづくりコンテスト実績》

- ・全国高等学校ロボット競技大会出場
予選を38位で通過、決勝トーナメント進出

- ・溶接部門秋田県大会
団体準優勝，個人優勝（東北大会出場予定）

3. 地域連携活動の紹介

「第2期あきた教育振興に関する基本計画」の大きな目標の1つが「地域とともに取り組む多様な教育活動の展開」であり，ふるさと教育を基盤とし地域等と連携したキャリア教育の充実が施策の柱にある。郷土を支えていく人材になるように，本校では地域密着型教育を実践している。そのいくつかを紹介する。

(1) 小坂七夕への参加

小坂町最大の夏祭りである「小坂七夕祭」に本校オリジナルの山車を制作し，2005年以來15年連続で参加している。社会参加活動への意識を養い，自ら行動する意欲と態度，郷土を愛する心を育むことを目的としている。



図3 町内中心部を練り歩く本校生徒

山車は青森ねぶたの流れをくむとされ，垂木と番線の骨組みに和紙を貼り付けて中に電球を仕込み，色を塗った絵灯籠風で今年の山車名は平安時代の武将「那須与一」。新しい令和の時代，困難なことがあっても与一の弓のよう乗り越えて頑張っていけるようにとの願いが込められた。高さは約4mである。

山車は毎年，課題研究の一環で3年生が製作している。丹精を込めてつくられた力作であり，見る者に感動を与えてくれる。苦勞しながら完



図4 ライトアップされた山車「那須与一」

成させることで生徒は達成感を感じるとともに，自信と誇りを持つことができる大事な機会である。ものづくりが人を大きく成長させる一場面を垣間見ることができる。



図5 骨組みに和紙を貼り付けている場面

(2) 小学校への出前授業

小坂町が2007年度から4年間，秋田県教育委員会の「環境ものづくり人材育成事業」のモデル地区に指定されたことをきっかけに，ものづくりへの関心を高めてもらおうと小坂小学校を訪れて「ものづくり教室」を現在も継続して行っている。

今年度は本校生が各学年6回にわたり小学校の図工科や総合的な学習の授業に参加した。人形の形を整える作業や装飾，釘打ちやボンドを扱う作業，のこぎりで切る作業の補助やプレゼンテーション資料作成を手伝った。

小学生の授業に参加することにより，生徒たちは，日頃学んでいるものづくりの知識や技術



図6 6年生の図工科の授業に参加する本校生



図8 ハンダ付けを教える本校生

を活用して臨機応変に対応していく力を育むことができる。また、児童とのふれあいを通して、個々への対応や異世代との関わり方を学ぶとともに、小坂高校への関心を高めてもらう機会としている。初めはやや戸惑い気味の高校生だが元気で純朴な小学生の影響を受け、丁寧に積極的な姿勢に変わっていく。教えることは学ぶことでもあり、高校生にとっても貴重な学習の場である。



図7 小学生の作業を補助する本校生

(3) 特別支援学校かづの校高等部との交流

異校種交流の一環として毎年実施している。本校はものづくり、かづの校は室内での「ネオホッケー」という両校それぞれの特色を活かした交流である。

ものづくりでは、クリスマスに向け「音と光」を醸し出す「メロディーキット」と「LED飾り」を製作した。特に精密さが要求されるハンダ付けでは、本校3年生が付き添って一つ一つの工程をわかりやすく説明しながら、「電子機器組立技能士」資格取得のために磨いた技術を存分に発揮した。初めは慣れない手つきで作業して

いたかづの校の生徒たちも完成に近づくにつれ、ものづくりの楽しさと達成感を味わう様子が窺えた。

「ネオホッケー」はアイスホッケーの床バージョン的な競技。かづの校が授業で取り組んでおり、かづの校の生徒から本校生徒に指導いただきながら簡単な練習とルールを学んだ後、6対6の試合形式で汗を流し、友情と互いの理解を深め合った。

この交流に先立ち1週間程前に、かづの校の教諭に来校してもらい、3年生に対して「生徒向け発達障害理解講座」を実施している。この講座は、発達障害の特性と困り感についてのわかりやすい説明と、具体的な対策を考える演習を通して学びを深める内容となっている。生徒たちは当事者意識を持って学ぶことができ、障害理解のみならず自己理解も深めることができたようである。そして実際に交流することで人間愛の大切さを体得することができたと思う。

(4) 課題研究発表会

本校は、国重要文化財である「康楽館」を会場に、小坂町関係者や企業、保護者・地域の方々に来場いただき課題研究発表会を実施している。以前は工業科のみの発表であったが、3年前から普通科においても探求的活動の成果を発表する場となっている。町が誇る「日本一歴史のある芝居小屋」で行うことで生徒のモチベー



図9 国重要文化財「康楽館」

ションも上がり、郷土愛を育む機会でもある。

「課題研究」は探究的活動の最たるものであり、発表会も県内ほとんどの工業高校で実施されている。秋田県では「工業系生徒による課題研究発表会」を毎年2月に実施しており、県内11校の代表が集い研究成果やプレゼン力を競う。今年度で6回を数える。

本校は今回が12回目であり、小坂町の行事としても定着している。何事にも言えることだが、続けているからこそ進化があり質の高いものができあがる。心に刻まれた3年生の発表が翌年の発表の糧になる。また、地域あげての盛り上がりが生徒の学習意欲を高め、深い学びにつながっている。



図10 オープニングでのよさこいチームの演舞

カリキュラムマネジメントの側面の1つに「教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせる」とある。発表後、デジタルプレゼンテーション「秋田・小坂の四季」に感動した参加者



図11 Nゲージ鉄道模型の走行場面



図12 溶接班が製作したフラワースタンド

から、年祝いの席等で上映できないか、また、町関係者からは「鉄道のある街」の模型を町の施設に展示できないか、等の要望があった。溶接班が丸棒（炭素鋼）を加工して製作するフラワースタンドも素晴らしい出来栄えで人気がある。地域の協力で得られた成果を地域に還元できるということは、理想的な形での連携になるのではあるまいか。

4. おわりに

本校は、地域を愛し地域に愛される生徒像を追い求めており、上記以外にも、年2回の町内全校クリーンナップ、除雪ボランティア、よさこいチーム「せいはいえんじ聖針槐」の地域行事での演舞等、年間を通して地域と連携した教育活動を行っている。そこは生徒が成長するための大事な舞台であり、そこで育まれた郷土愛は地域を支えていく大きな力となることを確信している。